

校種・教科等	高等学校 数学	受審番号	氏名
--------	------------	------	----

『高等学校数学科』 模擬授業課題

(1) 日 時 令和5年〇月〇日 第〇校時(分)

(2) 場 所 1年1ホーム教室

(3) 学年・学級 第1学年1ホーム(35名)

使用教科書 数学A(啓林館)

(4) 単 元 名 第1章 場合の数と確率 第2節 順列・組合せ

(5) 指導する児童(生徒)の状況

【既習事項】

・中学校では、多数の観察や多数回の試行の結果を基にして、同様に確からしいことに着目し、確率を求める方法を考察する。確率を用いて不確実な事象を捉え考察し表現する力を養っている。

【単元のねらい】

・確率の意味や基本的な法則についての理解を深めるとともに、それらに基づいて不確実な事象の起こりやすさを判断したり、期待値を意思決定に活用したりする力を培う。

【児童(生徒)の状況】

・単元に入る前に実施した確認テストでは、基本的な計算問題については約70%の正答率であるが、少し考えなければならない問題や条件を整理して解くような節末の問題については約35%であった。公式を覚えることはできるが、その意味を理解することや、適切に活用する力が弱い。

(6) 指導計画(全9時間)

次(時数)	学習内容	活動・指導形態	評価計画
第一次 (2時間)	【順列】 ・数え上げの原則や樹形図などを考えることにより、順列について理解し、事象を数学的に考察できる。 ・具体的な場面や事象について、順列の総数を求めることができる。(1時間・本時2/2 P27 例題5～P28 問15)	一斉 個別・ペア グループ	知識・技能 思考・判断・表現
第二次 (1時間)	【円順列と重複順列】 ・具体的な場面や事象について、どのような見方や考え方をすれば求めることができるか理解する。 ・順列のうち、ものを円形に並べる場合や同じものを繰り返し並べてよい場合の並べ方の総数を求めることができる。	一斉 個別・ペア グループ	知識・技能 思考・判断・表現
第三次 (2時間)	【組合せ】 ・組合せについて理解し、事象を数学的に考察できる。 ・具体的な場面や事象について、どのような見方や考え方をすれば数学的に求めることができるか理解する。	一斉 個別・ペア グループ	知識・技能 思考・判断・表現
第四次 (3時間)	【同じものを含む順列・重複を許してとる組合せ】 ・順列のうち、同じものを含む順列の総数は、組合せの考え方を使って求めることができる。 ・事象の構造などに着目し、どのような見方や考え方をすれば数学的に求めることができるか理解する。	一斉 個別・ペア グループ	知識・技能 思考・判断・表現
(1時間)	・単元で学習したことがどの程度身についているか自己評価することができる。	一斉 個別・ペア グループ	知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学びに 取り組む態度

●面接終了後、メモ用紙とともにクリアファイルに入れて提出してください。

校種・教科等	高等学校 数学	受審番号		氏名	
--------	------------	------	--	----	--

『高等学校数学科』 模擬授業課題

(1) 日 時 令和5年〇月〇日 第〇校時(分)

(2) 場 所 1年1ホーム教室

(3) 学年・学級 第1学年1ホーム(35名)

使用教科書 数学A(啓林館)

(4) 単 元 名 第1章 場合の数と確率 第2節 順列・組合せ

(5) 指導する児童(生徒)の状況

【既習事項】

・中学校では、多数の観察や多数回の試行の結果を基にして、同様に確からしいことに着目し、確率を求める方法を考察する。確率を用いて不確実な事象を捉え考察し表現する力を養っている。

【単元のねらい】

・確率の意味や基本的な法則についての理解を深めるとともに、それらに基づいて不確実な事象の起こりやすさを判断したり、期待値を意思決定に活用したりする力を培う。

【児童(生徒)の状況】

・単元に入る前に実施した確認テストでは、基本的な計算問題については約70%の正答率であるが、少し考えなければならない問題や条件を整理して解くような節末の問題については約35%であった。公式を覚えることはできるが、その意味を理解することや、適切に活用する力が弱い。

(6) 指導計画(全9時間)

次(時数)	学習内容	活動・指導形態	評価計画
第一次 (2時間)	【順列】 ・数え上げの原則や樹形図などを考えることにより、順列について理解し、事象を数学的に考察できる。 ・具体的な場面や事象について、順列の総数を求めることができる。	一斉 個別・ペア グループ	知識・技能 思考・判断・表現
第二次 (1時間)	【円順列と重複順列】 ・具体的な場面や事象について、どのような見方や考え方をすれば求めることができるか理解する。 ・順列のうち、ものを円形に並べる場合や同じものを繰り返し並べてよい場合の並べ方の総数を求めることができる。(1時間・本時1/1 P29～P31)	一斉 個別・ペア グループ	知識・技能 思考・判断・表現
第三次 (2時間)	【組合せ】 ・組合せについて理解し、事象を数学的に考察できる。 ・具体的な場面や事象について、どのような見方や考え方をすれば数学的に求めることができるか理解する。	一斉 個別・ペア グループ	知識・技能 思考・判断・表現
第四次 (3時間)	【同じものを含む順列・重複を許してとる組合せ】 ・順列のうち、同じものを含む順列の総数は、組合せの考え方を使って求めることができる。 ・事象の構造などに着目し、どのような見方や考え方をすれば数学的に求めることができるか理解する。	一斉 個別・ペア グループ	知識・技能 思考・判断・表現
(1時間)	・単元で学習したことがどの程度身についているか自己評価することができる。	一斉 個別・ペア グループ	知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学びに 取り組む態度

●面接終了後、メモ用紙とともにクリアファイルに入れて提出してください。

校種・教科等	高等学校 数学	受審番号		氏名	
--------	------------	------	--	----	--

『高等学校数学科』 模擬授業課題

(1) 日 時 令和5年〇月〇日 第〇校時(分)

(2) 場 所 1年1ホーム教室

(3) 学年・学級 第1学年1ホーム(35名)

使用教科書 数学A(啓林館)

(4) 単 元 名 第1章 場合の数と確率 第2節 順列・組合せ

(5) 指導する児童(生徒)の状況

【既習事項】

・中学校では、多数の観察や多数回の試行の結果を基にして、同様に確からしいことに着目し、確率を求める方法を考察する。確率を用いて不確実な事象を捉え考察し表現する力を養っている。

【単元のねらい】

・確率の意味や基本的な法則についての理解を深めるとともに、それらに基づいて不確実な事象の起こりやすさを判断したり、期待値を意思決定に活用したりする力を培う。

【児童(生徒)の状況】

・単元に入る前に実施した確認テストでは、基本的な計算問題については約70%の正答率であるが、少し考えなければならない問題や条件を整理して解くような節末の問題については約35%であった。公式を覚えることはできるが、その意味を理解することや、適切に活用する力が弱い。

(6) 指導計画(全9時間)

次(時数)	学習内容	活動・指導形態	評価計画
第一次 (2時間)	【順列】 ・数え上げの原則や樹形図などを考えることにより、順列について理解し、事象を数学的に考察できる。 ・具体的な場面や事象について、順列の総数を求めることができる。	一斉 個別・ペア グループ	知識・技能 思考・判断・表現
第二次 (1時間)	【円順列と重複順列】 ・具体的な場面や事象について、どのような見方や考え方をすれば求めることができるか理解する。 ・順列のうち、ものを円形に並べる場合や同じものを繰り返し並べてよい場合の並べ方の総数を求めることができる。	一斉 個別・ペア グループ	知識・技能 思考・判断・表現
第三次 (2時間)	【組合せ】 ・組合せについて理解し、事象を数学的に考察できる。 ・具体的な場面や事象について、どのような見方や考え方をすれば数学的に求めることができるか理解する。(1時間・本時2/2 P34 例題 10～P35 問 25)	一斉 個別・ペア グループ	知識・技能 思考・判断・表現
第四次 (3時間)	【同じものを含む順列・重複を許してとる組合せ】 ・順列のうち、同じものを含む順列の総数は、組合せの考え方を使って求めることができる。 ・事象の構造などに着目し、どのような見方や考え方をすれば数学的に求めることができるか理解する。	一斉 個別・ペア グループ	知識・技能 思考・判断・表現
(1時間)	・単元で学習したことがどの程度身についているか自己評価することができる。	一斉 個別・ペア グループ	知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学びに 取り組む態度

●面接終了後、メモ用紙とともにクリアファイルに入れて提出してください。

校種・教科等	高等学校 数学	受審番号	氏名
--------	------------	------	----

『高等学校数学科』 模擬授業課題

(1) 日 時 令和5年〇月〇日 第〇校時(分)

(2) 場 所 1年1ホーム教室

(3) 学年・学級 第1学年1ホーム(35名)

使用教科書 数学A(啓林館)

(4) 単 元 名 第1章 場合の数と確率 第2節 順列・組合せ

(5) 指導する児童(生徒)の状況

【既習事項】

・中学校では、多数の観察や多数回の試行の結果を基にして、同様に確からしいことに着目し、確率を求める方法を考察する。確率を用いて不確実な事象を捉え考察し表現する力を養っている。

【単元のねらい】

・確率の意味や基本的な法則についての理解を深めるとともに、それらに基づいて不確実な事象の起こりやすさを判断したり、期待値を意思決定に活用したりする力を培う。

【児童(生徒)の状況】

・単元に入る前に実施した確認テストでは、基本的な計算問題については約70%の正答率であるが、少し考えなければならない問題や条件を整理して解くような節末の問題については約35%であった。公式を覚えることはできるが、その意味を理解することや、適切に活用する力が弱い。

(6) 指導計画(全9時間)

次(時数)	学習内容	活動・指導形態	評価計画
第一次 (2時間)	【順列】 ・教え上げの原則や樹形図などを考えることにより、順列について理解し、事象を数学的に考察できる。 ・具体的な場面や事象について、順列の総数を求めることができる。	一斉 個別・ペア グループ	知識・技能 思考・判断・表現
第二次 (1時間)	【円順列と重複順列】 ・具体的な場面や事象について、どのような見方や考え方をすれば求めることができるか理解する。 ・順列のうち、ものを円形に並べる場合や同じものを繰り返し並べてよい場合の並べ方の総数を求めることができる。	一斉 個別・ペア グループ	知識・技能 思考・判断・表現
第三次 (2時間)	【組合せ】 ・組合せについて理解し、事象を数学的に考察できる。 ・具体的な場面や事象について、どのような見方や考え方をすれば数学的に求めることができるか理解する。	一斉 個別・ペア グループ	知識・技能 思考・判断・表現
第四次 (3時間)	【同じものを含む順列・重複を許してとる組合せ】 ・順列のうち、同じものを含む順列の総数は、組合せの考え方を使って求めることができる。 ・事象の構造などに着目し、どのような見方や考え方をすれば数学的に求めることができるか理解する。(1時間・本時1/3 P36～P37)	一斉 個別・ペア グループ	知識・技能 思考・判断・表現
(1時間)	・単元で学習したことがどの程度身についているか自己評価することができる。	一斉 個別・ペア グループ	知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学びに 取り組む態度

●面接終了後、メモ用紙とともにクリアファイルに入れて提出してください。